

『一生懸命』幻の新座市議会報告第137弾!



たかむらともや

第18回わいわい川遊び

今回の川遊びは、新座市、新座市教育委員会、石神小・野寺小・栗原小そして八石小の協力で大勢の子どもたちが、参加してくれました。

最初に川掃除をして、黒目川を綺麗にしました。その後は、手網を使って”魚採り”です。100人以上の子どもたちが魚と格闘し、多くの魚を自分の手で捕まえて、大喜びでした。



魚採りの後は”お勉強”です。五中の卒業生で、おさかな博士の佐藤さんが子どもたちに丁寧に説明してくれたので、大勢の子どもたちが黒目川の魚の名前を憶えてくれました。中学生の中には夏休みの理科の宿題と決めて、参加してくれた子もいました。下の写真はオイカワです。婚姻色が綺麗なことで有名な魚です。



8月になるとこの”川遊び”のことを毎回書いています。子どもたちの笑顔とお父さんお母さんたちの笑顔がたまらないのです。



2016年8月31日発行



五中OBの佐藤さんです。黒目川のことなら、何でも知っています。市内小中学校の理科の先生たちも色々教えて貰うといいと思います。



たかやんのプロフィール



1954年2月、東京青山生まれ。新宿区立西戸山中学校、都立石神井高校卒。北大3年の時に、突然教師を目指しはじめ、無理やり教職の単位を取る。

北大卒業直後の4月、五中1期生の3年4組を担当する。当時、新任で中三の担任をしたのは日本で一人だけだった。(そりゃあそうですよね。普通ではありえません)五中、六中、二中でのあだ名がたかやん。

大好きな政治家は田中角栄、ホセ・ムヒカ、バーニー・サンダース、そして沖縄県知事翁長雄志。

大好きなものは「子どもたちの笑顔」「テニス」「音楽」「川掃除」「駅立ち」「写真」「餃子」「読書」「とろろご飯」「日本ハムファイターズ」「浦和レッズ」

大嫌いなものは「今の自民党」「自民党憲法草案」「欲に塗れたグローバリストと政治家たち」「TPP」「核兵器と原発」「弱い者いじめ」「煙草を平気で道路や川に捨てる人間」「煙草の煙」「集団的自衛権」「消費税」「改正派遣法」「マイナンバー」「牡蠣」

身長175センチ、72キロ、体脂肪率15.4%



たかやんの応援団 で 検索



たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 27年度決算に反対！

我々「市民と語る会」(木村俊彦・たかむらともや)はこの9月議会で27年度決算に反対しました。いくつかの理由がありますが、世界では時代遅れといわれているマイナンバー制度に、2億円近い税金を投入した年度だということが一つあります。

「財政難」と言いながら、新座駅周辺に100億を超える区画整理事業を組合施工ではなく、同時に2つ市施工で展開しはじめた年度でもありました。

保育園の待機児童が大問題になっているのに、新庁舎の建設に踏み切った年度でもありました。

「財政難なんです！」と、27年度も教職員から年間1万8000円(全体では750万弱)の駐車料金を取りました。この10年間でなんと7500万円も先生たちから徴収しているのです。こんな市は新座市を含め県内で3市しかありません。

「財政難なんです！」といいながら、市長・議長・教育長の3台の公用車には年間1500万円(10年で1億5000万円)以上の税金を使って平気なのですから、こっちが恥ずかしくなってきます。

保育園は建たず(少しは増えていますが)、放課後児童保育室の大規模化、狭隘化は解消できていないのに、大型事業はどんどん進めていった年度です。そして、石神小の大規模改修は先送りなのに、来るか来ないか分からない地下鉄12号線の為に、9億円以上の税金を基金として積んでおこうというのだから、どうかしています。反対して当たり前です。

2月の選挙では「待機児童をなくします」と公約に挙げていた人たちも、大型の区画整理事業や地下鉄延伸を優先するので困ったものです。

人口を増やせば、税収が増える・・・という考え方は古いのです。人口が増えれば、増えた分だけ保育園も学校も必要になります。それだけ福祉サービスの負担も重くなっていくのです。新座駅周辺の一点集中型の区画整理事業は実に危険です。

一方で新座市の子どもたちの学力は低迷し続けています。新座市の中学生の学力は全国平均は勿論、県の平均もここ数年続けて下回り、朝霞4市では連続して最下位の状態が続いています。

待機児童をなくし、子どもたちの学力を上げていくことが、ゆっくりではありますが、新座の税収UPにつながると僕は思っています。

③ 体育祭！！

五中と六中の体育祭を見に行きました。9月10日、最初に六中へ行き、大声で「輝く若葉の青春よ！」と六中の校歌を歌いました。六中の校歌は世界一綺麗な校歌です。10年間、子どもたちと一緒に燃えた校庭で、昔と同じように大声で歌いました。六中生はいい顔をして校歌を歌っていました。彼らをみていたら、ちょっと泣けてきました。六中の校庭でクラス対抗の綱引きに燃えたことを思い出しました。

五中には来賓紹介が終わるころを見計らっていました。現役時代、「来賓の挨拶や紹介程、体育祭にいらぬものはない。」そう思っていましたので、六中でも五中でも少しは先生たちや子どもたちの役に立ったと思っています。

五中の体育祭は40年前から10年間、僕らが生徒たちと作り上げた体育祭の伝統を受け継いでいました。台風の日やローハイド、鯉の滝登り、スウェーデンリレー、クラス対抗大縄などの種目もそうですが、二色対抗の応援合戦と校歌にその伝統が凝縮されていました。後輩の先生方と子どもたちの信頼関係もちゃんと受け継がれていて、彼らの姿を見て、何度も涙を流しました。最後に子どもたちと一緒に校歌を歌ったとき、今は亡き先輩たちの姿が目に浮かびました。中村徹一郎、山田茂、神宮司久子、甲神岳、渡辺幸子、佐倉田清・・・当時、新設校の五中を部活動でも学力でも県のトップに作り上げた先輩たちのことを思い出して、また泣けてきました。本当に素晴らしい体育祭でした。



五中の応援合戦では黄組が勝利しました。短い練習時間でこれだけの演技ができるのですから、五中生の力は本物です。赤団というライバルと先生たちの存在が大きな力になったのでしょう。



読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください m(_ _)m